

※参加申込は各施設に配布されていますハガキにてお願いします。
ハガキが来ていない施設の方はメールにてご連絡をお願いします。
メールアドレス : susumu.ueamura@nikko-kinen.or.jp

趣意書

現在、血液透析療法は、延命目的から社会復帰を目指す治療法として発展しています。透析患者の社会復帰は当然のことであり、さらなる Quality of life の向上を目指し、血液透析療法が行われているとさえ言えます。

このため、透析器は大孔径化、高性能化される傾向があり、また、透析効率を向上させるため、様々な治療モードが考案され、透析液を直接置換液として用いる On-line HDF や Push&pull HDF が臨床で行われています。

このような透析療法を選択した場合、透析液の水質管理を厳重に行い、清浄化された透析液を供給する必要があります。また、透析液も使用する透析液の種類により水処理装置から検討しなければなりませんし、さらには透析周辺機器も新しい技術が導入され、体重計、血圧計も含めたコンピューターのオンライン化も検討されています。

このように透析技術の発展はめざましいものがあり、透析患者様に、より良い透析生活を送ってもらうため、各施設においては優れた技術の導入を検討する必要があります。

当会はこれら多くの情報を集め、客観的な判断、検討するべく発足し、様々なテーマを今後も検討してまいります。

本年は演題を一新しいダイアライザ機能分類で考え方はどう変わるのかーとし、人工腎臓に関わる各メーカー9社より、最新の情報を教えて頂きます。

質疑応答の時間も設けます。皆さんと情報を共有し、有意義な会にしたいと存じます。

開催日 : 2016年9月11日(日)

会場 : 北海道大学学術交流会館(札幌市北区北8条西5丁目)

北海道透析技術談話会

代表世話人	大澤 貞利
世話人	阿部 正道
世話人	土濃塚 広樹
世話人	植村 進
世話人	佐々木 雅敏

共催 : 北海道透析技術談話会

中外製薬株式会社

扶桑薬品工業株式会社

後援 : 公益社団法人北海道臨床工技士会

第17回北海道透析技術談話会

—新しいダイアライザ機能分類で考え方はどう変わるのか—

2016年9月11日(日)

会場：北海道大学学術交流会館(札幌市北区北8条西5丁目)

参加費：1,000円

9:55-10:00 開会の辞

10:00-10:20

『東レ・メディカルの考え方!』 東レ・メディカル株式会社

10:20-10:40

『旭化成メディカルの考え方!』 旭化成メディカル株式会社

10:40-11:00

『ニプロの考え方!』 ニプロ株式会社

11:00-11:20

『川澄の考え方!』 川澄化学工業株式会社

11:20-11:50 「企業セミナー」① 中外製薬株式会社

『新しい腎性貧血ガイドライン 改定のポイント』

12:00-12:50 「ランチョンセミナー」 扶桑薬品工業株式会社

『長時間透析と処方透析(仮)』

医療法人 如水会 嶋田病院 臨床工学部 部長 甲斐 正信 先生

13:00-13:20 「企業セミナー」② 株式会社カネカメディックス

『下肢末梢動脈疾患指導管理加算をふまえて』

13:20-13:40

『日機装の考え方!』 日機装株式会社

13:40-14:00

『バクスターの考え方!』 バクスター株式会社

14:00-14:30 総合討論

14:30 閉会の辞

共催：北海道透析技術談話会

中外製薬株式会社

扶桑薬品工業株式会社

後援：公益社団法人北海道臨床工学技士会